

平石 俊介

先月、中体連夏季大会が終わり、僕はソフトテニス部の主将になった。新しいチームの目標を定める前に、先輩たちの姿から学んだことをまとめておきたい。

初日の団体戦は一回戦からシード校との対戦となった。先輩たちは、どんなに苦しい展開になっても、大きな声を出してプレーを続けていた。本当にすごいと思った。僕達もコートの外から精一杯応援をした。

負けが決まった瞬間は、とても悔しかった。直接戦っていない僕だって、こんなに悔しかったのだから、先輩たちは本当に悔しかっただろうと思う。

二日目の個人戦。先輩たちは負けたら終わり、というのもあって気合の入り方が違った。一球、一球、魂を込めてプレーしている先輩たちの姿に感動した。

新チームとなり、9人になった。新チームの目標は「団体戦優勝」に決まった。そして2年生で話し合った結果、僕が主将をつとめることになった。チームが掲げる目標を高く設定しているから、誰が主将になってもきっと頑張るメンバーだと思う。それに9人しかいないのだから、協力せずに目標を達成できるとは思えない。だから僕は主将になったことで不安になったりはしていない。

7月に入り、新しいチームのスタートを切った。3年生がいなくなったコートはとても広く感じた。もう3年生はいない。自分たちで盛り上げていかなければならない。「一生懸命は最低条件」と、みんなで声をかけ合っている。夏の練習は暑くて大変だけど、限られた時間の中で、僕自身も、チームも成長を続けていきたい。